



つながろう

CO・OPアクション情報

2012年3月21日

第15号

◆全国へありがとう



みやぎ生協 六丁の目店
エリアリーダー
松木 弥恵さん

交流会に参加させていただき、全国の生協からこんなにもたくさんの方の支援をいただいていたのだとあらためて感謝しました。大きな被害を受けた地域でのエリアリーダー（地域の組合員リーダー）としての仕事は、手探りばかりでしたが、「人の力」で少しずつ地域がまとまってきたのを感じました。メンバー（組合員）さんたちとの絆を感じた1年でした。この交流会で、全国の生協の方とさまざまなお話をしましたが、風習や言葉が違って、心の根っこ部分は、みんな同じですね。頼もしく感じました。あの日の津波の記憶は、消えることはありませんが、その記憶の上に、実のある生協活動を積み上げ、恩返しをしたいと思えます。

皆さん、遠くから、ありがとうございます。

共に前へ。

～全国の生協、仙台に集結～



パネルディスカッションの様子。現状報告や今後の支援などが熱心に討論されました。

東日本大震災から1年。3月8日、全国の生協と被災地生協の組合員が宮城県仙台市に集まり、「つながろうCO・OPアクション交流会～つどう・つながる・つむぐ・絆～」が開催されました。全国から54生協の役職員・組合員、計239人が参加しました。

全体会では被災地3県と、支援に当たった生協の組合員理事によるパネルディスカッションが行なわれ、これまでの支援活動と被災地の現状、そして、今後の支援について考えました。その後、参加者は3つの分科会「支援活動とボランティア」、「放射性物質問題」、「地域の防災・減災の活動」に分かれ、各生協の取り組み報告や、グループ交流を行ないました。

また会場のロビーでは、被災地を“買って支える”「東北応援市」も開かれました。岩手県からは、復興支援団体「かけあしの会」が出店。宮城県からは、みやぎ生協など182団体*が加盟する「食のみやぎ復興ネットワーク」の開発商品が、そして福島県からは被災された生産者の商品が所狭しと並び、多くの参加者が立ち寄り、購入していました。

※2012年3月21日現在の参加団体数です。



カキ生産者の話を聞くツアー参加者。

被災地訪問ツアーも開催

3月9日には、交流会参加者が被災地をめぐるツアーを行いました。コースは「石巻・女川」「名取・仙台」「石巻のCO・OP商品製造者訪問」の3つで、製造者訪問コースの参加者は「工場のいち早い稼働が復興につながるのだと感じました。本当の意味で寄り添うためにも参加してよかったです」と話していました。

【岩手県】

◆組合員インタビュー



いわて生協 水沢コープ理事
佐々木 世津子さん
(写真、左から2人目)

仮設住宅などで暮らす方々が作る商品を多くの方に購入していただければ、多額ではありませんが現金収入が生まれます。また、生協と取引のある沿岸部の産地も被害を受けましたが、組合員として愛着のある商品が元のように生産できるようになってほしい気持ちも強くあります。これからも、商品の利用と販売のお手伝いを続けていきたいです。

◆復興へ、前へ前へ



いわて生協スローガン。

いわて生協では、「がんばろう! 岩手」をスローガンに、組合員の協同の力で被災した組合員・地域を支援し、岩手の復興に貢献する輪を広げ、岩手を復興させていくという思いで、日々活動しています。

2012. 3. 11

東日本大震災から1年がたった3月11日。多くの生協で、組合員・職員・協力団体・地域がつながりました。

【いわて生協】

震災から1年を迎え、いわて生協では3月8～11日の4日間にわたり、「がんばろう! 岩手セール」を実施しました。売り場には、「復興応援商品」として地元の生産者やメーカーの商品が数多く並び、注目を集めていました。

また、いわて生協の12店舗のうち9店舗では、被災した方々の手作り品や沿岸部の特産品を組合員・職員のボランティアが協力して販売する「復興応援商品コーナー」も開設されました(左欄上、関連記事掲載)。

コープ Aterui (奥州市) では「復興応援商品コーナー」が店舗の入り口正面に設けられ、大盛況でした。買い物をされたご夫婦は、「支援の気持ちで購入したということももちろんありますが、沿岸部の商品は、商品としても魅力的です。産地は大変だと思いますが、必ず復興してほしいです。心から応援したいです」と話していました。



「復興応援商品コーナー」には、多くの人が立ち寄っていた。



商品を作られた方の案内。

【みやぎ生協】

3月11日、みやぎ生協蛇田店では、野菜コーンラーメンの振る舞い企画が行なわれました。これは、みやぎ生協が参加する「食のみやぎ復興ネットワーク」が主体となっただけの企画で、3月8～11日に、被災地や応急仮設住宅周辺のみやぎ生協店舗10店舗にて、食品メーカーさんを主とした26団体のご協力のもと行なわれました。蛇田店では、サンヨー食品(株)さんがインスタントラーメンを、はごろもフーズ(株)さんが缶詰のコーンとウズラの卵を、みやぎ生協がほうれん草とバターを提供。買い物に来た組合員に約300食を振る舞いました。子どもたちと4人で来た組合員の後藤幸恵さんは、「子どもに喜ばれそうなトッピングのラーメンをいただき、家でも作れるのでいい参考になりました」と話していました。他店でも、カレーライスや野菜ちゃんぽんなどが振る舞われ、多くの人でにぎわっていました。



熱々のラーメンが振る舞われた。



このような振る舞い企画は度々行なわれている。

【宮城県】

◆組合員インタビュー



みやぎ生協組合員
阿部 幹夫さん

震災直後から店を開き、食品を提供してくれて感謝しています。生協が一番いいのは、品質のいい品物を提供してくれることです。私の震災被害は家の一部損壊でしたが、港にあった会社が壊滅的な被害を受けました。被災から1年たちましたが、会社はまだ復興途上で、来年の再開に向けて頑張っています。生協はこの1年の間に何回もタオルのような日用品や食品の配布をしてくれるので、被災から立ち直る皆の役に立っています。

◆復興へ、前へ前へ



みやぎ生協スローガン。

みやぎ生協では、震災フレーズ「悲しみを乗り越えて ともに歩もう ー希望 未来ー」を3月12日より「ともに歩もう 築こう未来 = 協同・たすけあい=」と新たに、日々活動しています。

【コープふくしま】

3月11日、コープふくしまの全店舗で、おたのしみレシート番号くじ、まる得ポイント5倍サービスなどが実施されました。また、コープふくしまは、毎月11日を「いきいきコープ復興応援デー」と定め、売り上げの1%を、子育て応援や除染活動のために役立ててほしいと地域の市町村へ寄付しています。さらに、エントランスでは、原発撤廃などを訴える署名活動を展開、みんなで取り組みたいという思いから、従業員が交替制で組合員に署名を呼び掛けました。これらの取り組みはすべて、この日のために、コープふくしまの従業員全員で考えてきたものです。

原発や放射能の問題は、震災から1年たった今も解決のめどが付きません。しかし、すべての人の願いはひとつ、安心して住める「福島」を取り戻すこと。そのために希望を持って共に前へ進んでいきたい、そんな決意を新たにしたい一日となりました。



おたのしみレシート企画も、職員の発案。



署名をする来店者。

店長インタビュー

震災1年を経て思うことについて、被災地3県の店長にお聞きしました。

いわて生協 コープAterui (岩手県奥州市)
統括店長 北島 正氏



「奥州市から沿岸部まで1時間半。バスボランティアは当初は盛岡からだけでしたが、奥州市からもバスを出し、沿岸部でのボランティア活動に取り組みました。組合員の方々も職員同様、支援への気持ちは強く、積極的な参加がありました。『復興応援商品コーナー』もご好評いただき、地域の方々の(被災地を)支えていこうという気持ちを強く感じています。これからも未永く支援を続けていきます」

みやぎ生協 蛇田店 (宮城県石巻市)
店長 伊藤 勝巳氏



「振る舞い企画には、日曜日にもかかわらず、多くの食品メーカーの社員さんが参加してくださいました。『お役に立ててうれしい』という熱い気持ちが伝わってきます。この企画は生協だけのものではなく、生協と地域、メーカーさんと心をつなげた復興祈念の事業です。生協の事業は、仕事だけではなく、交流して支え合うことが大切なのです。これからも、こうしたつながりを大切に、力を合わせて復興していきたいと思えます」

コープふくしま コープマート方木田店 (福島県福島市)
店長 河原 信彦氏



「訪れる組合員の顔ぶれは、1年前と大きく変わりました。原発周辺に住んでいた方が福島市内に引っ越し、顔なじみの組合員が放射線を恐れて出ていったためです。放射線は20年、30年と引きずる問題。福島では皆、言い知れない不安や恐怖を抱えています。買い物するほんの束の間でも、それを忘れられる店舗を目指したいです。このままでは若い人がただ出て行くだけの場所になってしまう。安心して暮らせる福島を早く取り戻したいです」

【福島県】

◆組合員インタビュー



コープふくしま組合員
佐藤 栄子さん

息子一家は、福島第一原発から4kmほどの大熊町に住んでいましたが、震災後、福島市内に避難してきました。突然、故郷を離れることになり、帰れなくなってしまった孫たちは、大きなショックを抱えています。息子は、今でも仕事のため原発の近くに通っています。除染作業をしても持っていく場所がありませんし、放射能や原発に関する正確な情報が知られない状況。震災から1年たった今、不安は解消されるどころか、募るばかりです。

◆復興へ、前へ前へ



署名フォーマット。

福島県生協連では、“安心して住める「福島」を取り戻すため”の署名活動と呼び掛けています。

福島県連HP

http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/?page_id=138

つながろう！東北の元気タオル全国で活用

3月11日、東北サンネットではいわて生協・みやぎ生協・コープふくしま全店舗の先着4万4,000人に「“復興祈念 つながろう！東北の元気”タオル」をプレゼントしました。また、同デザインのタオルを、日本生協連から全国の生協に活用を呼び掛け、35生協から、計8万4,000本の注文がありました（本誌11号参照）。各生協は、店舗や宅配での販売・配布、職員への配布、募金者へのプレゼントなど、さまざまな用途でタオルを活用しました。



いわて生協。



みやぎ生協。



コープふくしま。



ユーコープ事業連合は、東北産の米の購入者へ贈呈。



生協ひろしまは、来店者に贈呈。



コープおおいたは、組合員が販売。売り上げの一部を支援活動金へ。

他にも！

全国で復興支援ツール活用

全国の生協では、復興支援活動継続への思いと決意を表明するため、全国で共通の支援ツールを活用しています。その活用の様子を一部ご紹介します。

支援ツール

- ①支援バッジ (44生協 計5万760個)
- ②車両ステッカー (49生協 計2万2,625枚)
- ③店舗ポスター (33生協 計2,700枚)
- ④「つながろうCO・OPアクション情報」特別版 (45生協 計8万6,000部)



鳥取県生協。ステッカー、バッジ活用。「被災地に届く支援をしたいです」



コープあいつ店舗にてポスター掲示。



なお、3月には、日本生協連が『震災復興支援記録DVD (第2集)』および『震災復興支援記録集』を制作し、全国の会員生協および関連各位へ配布しています。

◆全国生協の緊急支援 まとめ(1)

<地震の概要>

2011年3月11日14:46
東北地方太平洋沖地震
発生
規模:マグニチュード9.0

<被災地生協の緊急支援活動>

被災地生協は、地震発生直後に対策本部を設置。被災者への商品供給に努め、また自治体や避難所への物資の配送も行ないました。

また、お見舞い活動を行ない、被災者の孤立を防ぐとともに、困りごとの相談に応じてきました。



被災地支援に向かういわて生協トラック。

<全国の会員生協の緊急支援活動>

2011年4月28日までに、トラック延べ1,190台分、支援者延べ3,587人を派遣。食料や燃料を含む約71万点(トラック約370台分)の物資支援が行なわれました。

また、日本生協連加盟のほぼすべての会員生協で募金活動が行なわれました。

復興への思いを歌にのせて

みやぎ生協は3月6日、仙台市泉区イズミティ21大ホールで、歌手・クミコさんのコンサートを開催しました。クミコさんは、震災当日、「こ〜ぷ文化鑑賞会石巻例会」に出演するために訪れていた石巻市で被災。今回のコンサートは、日本生協連の助成金を受け、震災から1年を経て実現したもので、一般のメンバーとともに、当時の文化鑑賞会石巻会員の皆さんも多数参加されました。

コンサート冒頭では、震災で犠牲になられた方への黙とう後、みやぎ生協理事長の齋藤昭子氏の「絆とともに響く歌声から、明日への、復興への思いを確かめ合いたい」というあいさつで開演しました。クミコさんは13曲を熱唱。拍手が鳴り止みませんでした。

名取市の閑上で被災し、現在仮設住宅で暮らす組合員は「歌のひとつひとつが心に染みしました。生協で活動していたことで、こういう機会がいただけたので、恵まれているなと思っています」と、感激した表情で話していました。



皆が開場を心待ちにし、列を作っていた。



来場者と固い握手を交わすクミコさん。「やっとお会いできましたね」

全国産直研究交流会、仙台で開催



実践報告が、田老町漁協、コープふくしま、みやぎ生協から行なわれた。



交流会参加者から集めたメッセージを生産者に贈呈。

日本生協連は、2月24~25日、宮城県仙台市の江陽グランドホテルにて、「全国産直研究交流会」を開催しました。28回目となる今回は初めて首都圏を離れ、東日本大震災で被災した宮城県仙台市での開催でした。参加者は、全国生協の産直担当者、組合員、生産者、流通・加工会社など159組織372人。復興を目指す被災生産者や被災地生協の報告を中心に行なわれ、あらためて生協産直の意義を確認し合う交流会となりました。

研究交流会終了後にはオプション企画として、岩手県田老町漁協、宮城県南三陸町の宮城県漁協志津川支所、宮城県JAみやぎ仙南などを訪問しました。参加者からは「決して忘れてはならない震災の被害を知り、生の声を聞くことができました。生協産直にしかできないことがあるので、それを育ていけるよう力になりたいです」といった、地域の再生に向けて自ら関わっていこうとする声が多く寄せられました。

◆全国生協の緊急支援 まとめ(2)

<日本生協連の緊急支援活動>

震災直後に対策本部を設置。当日夜に、緊急支援物資を載せた10tトラック4台が現地に向かい、本格的な支援がスタートしました。

以降、取引先や全国生協の協力を得、4月6日までに食料品等1,170万点(10tトラック633台分)を送り出しました。

<海外からの支援>

3月16日、国際協同組合同盟(ICA)は「日本災害復興基金」の設置を発表。また、シンガポール、韓国、アメリカ、タイの協同組合組織から支援の申し入れを受けました。

以降、生協では、生活支援、生産者支援、事業支援、放射性物質除染の取り組みなどを継続して行なってきました。

(詳しくは、「つなごろうCO・OPアクション情報」1~14号、特別版をご覧ください)



除染を行なうコープふくしま。

支援募集情報

○いわて生協：ふれあいサロンで使用する、お菓子(各地の名産品など)や、ぬりえ、色鉛筆など募集しています。連絡先は、いわて生協組織本部 中村 弥生さん(019-603-8299 月~土9:00~18:00)まで。

○復興プロジェクトかけあしの会：被災された方の手作りで制作し、収入源となっている「あわびの貝アクセサリー」。この原料となる、あわびの貝が不足し、作業提供が難しくなっているため、あわびの貝を募集します。送り先→〒027-0038 岩手県宮古市小山田2-2-1 マリンコープDORA 店長 菅原 則夫さん(送料は、発送者ご負担でお願いいたします)

○みやぎ生協：ふれあい喫茶で使用する、お菓子(各地の名産品など)を募集しています。連絡先は、みやぎ生協・ボランティアセンター(022-218-5331)まで。

○食のみやぎ復興ネットワーク：「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JAいしのまき」に海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん(022-772-6141)まで。

○福島県生協連：「福島の子どもの保養プロジェクト」の①スタッフ、②4月以降の大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画(日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等)を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん(024-522-5334)まで。

(保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください)

○その他：首相官邸HPにて「被災地の今」を伝える「私の復興便り」コーナー(<http://www.kantei.go.jp/fukukou/tayori/>)が開設され、震災を忘れないための取り組みとして、被災地や復興支援活動の様子を写真で紹介しています。読者の皆さまが撮った復興支援活動の様子などを、是非、投稿し、全国で共有してください。

募金情報

日本生協連が東日本大震災の被災者支援のために開設した募金口座には、2012年3月15日現在、累計で約23億5,000万円が寄せられています。また、会員生協が独自に取り組んでいる募金を含めると、生協グループ全体の募金総額は約35億3,000万円にのぼります。いただいた募金は、随時、被災各県に送金しています。また、日本生協連では会員生協に「つなごろうCO・OPアクション 暮らし応援募金」を呼び掛けています。募金先は、①東北サンネット事業連合「仮設住宅への灯油支援」、②福島県生協連「福島の子どもの保養プロジェクト」、③「学校図書館げんきプロジェクト」の3つです。

「つなごろうCO・OPアクション情報」16号発行のお知らせ

隔週で発行して参りました本誌ですが、第16号より、月1回の発行となります(8P構成)。今後も、被災地の復興の姿、そして全国生協の支援活動の様子を伝えて参ります。

編集長あいさつ

震災から1年がたちました。皆さん、さまざまな思いで、3月11日を迎えられたと思います。先日、みやぎ生協理事長の齋藤 昭子氏に日本生協連でご講演をいただきました。その際、「被災地の宅配の支部や店舗に立ってみてください。そうしたら、きっと『協同の力』を感じることができます」とおっしゃられました。被災地生協、そして全国の生協のつながりで築き上げたものが、被災地にあるのだと思います。

「被災者の目となり、耳となり、口とならなければならない」。生協の父と呼ばれる賀川 豊彦が関東大震災の支援に駆け付けた際の言葉です。生協は、これからも被災地に寄り添い、支援活動を続けていきます。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。



つなごろう CO・OPアクション情報
(毎月最終水曜発行・次回4月25日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-2-9-8 コーププラザ11F
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051
action@coop-book.jp

